

令和 6 年度第 2 回 大津市歴史博物館協議会 議事録

日時：令和 7 年(2025 年) 3 月 19 日（水）14 時～15 時 30 分

場所：大津市歴史博物館 講堂

出席委員：9 名（会長・副会長を含む）

事務局：4 名（館長・副館長を含む）

《次第》

1.開会

2.歴史博物館長あいさつ

3.協議事項

(1) 大津市歴史博物館基本的運営方針の見直しについて

(2) 令和 6 年度の事業結果について

(3) 令和 7 年度の事業計画について

4. 閉会

《協議事項》

会長

議題(1)大津市歴史博物館の基本的運営方針の見直しについて、事務局から説明をお願いします。

(事務局より内容説明)

会長

前回、第 1 回の説明・議論を踏まえて、修正案について説明いただきました。皆さんのお気づきの点、ご意見があればお願いします。

委員

資料の 9 ページのデジタルへの取り組みについて、キットの公開はどのようなものでしょうか。

副館長

これまで公開させていただいたキットは、すごろくや塗り絵などです。塗り絵は、歌川広重の街道・宿場の浮世絵です。キットには作品の解説シートをつけています。他には兜作りのキットなどもあります。今後も増やしていこうと考えております。また、令和 5 年（令和 4 年度）の災害史展の内容と連動させたカルタを最近公開することができました。

委員

資料の 6 ページのワークシートについてですが、これは各学校に応じたものか。それとも地域別の簡易的なものなのか。いずれにしても学習の機会を与えるためのワークシートか。

副館長

現在あるワークシートは、展示の解説シートとして作成しているものです。常設展示の各コーナーに設置し、そのコーナーが理解できるような内容となっています。今後は、より展示内容を深くご覧いただくため、例えばクイズラリー形式のワークシートの作成など、臨機応変にやっていきたいと考えております。

委員

(資料の) 修理やレプリカの制作について。古いものだと 100 万、200 万とかかるという風にはお聞きしたことがあるんです。レプリカ作成について、それなりに費用がかかる。今回の資料には予算のことが入っていなかったので、その辺は気にしなくてもよいのでしょうか。

副館長

潤沢な予算があるわけではありませんが、大津市文化財調査・保存・活用計画の中で、レプリカや資料修理を事業に位置付けています。この活用計画を進めていくにあたり、大津市文化観光振興基金を積み立て活用している状況です。

委員

予算がない博物館が多いと聞きます。クラウドファンディングなどはどうでしょうか。予算を確保するということだけではなく、実際に文化財を修理することに対して、それぞれが参加する。気持ちを寄せていただくとでもいいでしょうか。どうですか。

副館長

クラウドファンディングは取り組んでみたいものではありませんが、実際に市の予算執行の中でどういう形であれば可能なのか、実務的なところで少しハードルがある状況です。

館長

補足説明になりますが、やはり財政的に苦しい市町村がたくさんあるなかで、大津市の場合は、市長が文化財をこれからの街づくりに活かしていくという方向で重要視しています。それが、文化振興基金につながったということでもあります。継続的な事業はなかなか難しいなかで、基金を利用することで、単年度予算ではできないようなことも可能となっています。

す。

委員

資料の 9 ページです。報告書の事業以外に、例えば所蔵品の写真や基本情報を公開されるような取り組みがされているのか。例えば国立博物館のデジタルコレクションのような。教えていただけますでしょうか。

副館長

博物館の収蔵品につきましては、以前から収蔵品データベースであったり、古写真のデータベースであったり、公開作業を進めております。もともと収蔵品管理システムから画像をホームページにアップしております。

収蔵品以外ですと、「大津の歴史データベース」に大津市内の文化財のデータベースをまとめています。なかには文字情報だけで写真がないものもあります。今後、所有者の方と協議しつつ、画像管理等を含めどうあるべきかを考えたいと思っております。

委員

ありがとうございます。これは収蔵品全てを公開されているのでしょうか。

副館長

残念ながら全ては公開できておりません。開館時には、撮影がフィルムからスタートしておりまして、すべてにおいてデジタル撮影ができていない現状があります。今後、積極的に増やしていくようなことが必要だと感じております。

委員

所蔵品のデータベースは、点数が多かったり、取り扱いも難しく、確かに難しいですね。

会長

では、ご質問、ご意見も出つくしたようですので、今後 5 年間、この修正した基本的運営方針に基づき、博物館事業を進めていただくということでよろしいでしょうか。

(委員異議なし)

会長

それでは次に令和 6 年度の事業結果について事務局から報告をお願いします。

(事務局より内容説明)

会長

追加で説明してほしい内容でも結構です。ご質問はいかがでしょうか。

副会長

資料の 39 頁です。(夏休みワークショップの) 応募数の方が多く、当選数が限られる講座が多く見受けられるのかなと思うんですけども、何か多くの方を当選にして参加いただく方法がないのかなと考えました。結構お断り(落選)となっているので。

事務局

落選者が非常に多かったところに関しては、おもちゃの作り方をホームページに公開するようにしています。実施する上では、レクチャーをする成安造形大学の学生さんの人数であったり、開催日数を増やすなど、それらの対応が現状難しいところではあります。ただ、できるだけ落選してしまった方を何かしら救い上げる工夫を今後も考えていきたいと思っています。

委員

資料の 40 台のページで、先方から依頼を受けて学芸員の方が出講されている情報を示していただいております。一方、博物館の方から積極的に打ち出して、出講することはあるのでしょうか。

副館長

基本的には、ご依頼いただいて出講する形になっております。

ただ、博物館側からも、お尋ねに対して、例えば「こういうお話ができます」というような返答をおこなっています。打ち出しについて、年間 40 回以上の「れきはく講座」でさせていただいておりますので、その上で、引き続きご依頼いただいた内容に対応していきたいと思っています。

委員

派遣料(講師料)などは発生しているのでしょうか。

副館長

公務での対応になりますので、基本的に頂戴することはございません。

会長

最後に議題 3 で令和 7 年度の事業計画について、事務局から報告をお願いします。

(事務局より内容説明)

会長

それではご質問はいかがでしょうか。

委員

58 頁の調査収集事業のところで、ちょっと具体的な内容に踏み込みすぎてちょっと申し訳ないんですけど、「膳所焼」に関して引き継ぐ方がおられなくなってしまった話を聞きました。窯も取り壊されたと聞いています。復興した膳所焼だと思うのですが、そういうものに関して、伝承も含めた保存事業はお考えなのでしょうか。

副館長

膳所焼につきましては、復興の膳所焼として始まったもので、当館でも何年か前に山元春拳の展覧会をさせていただいた時に、春拳の関連の中でご紹介をさせていただき、また作品をお借りして展示をおこないました。

窯の話は、状況はお聞きしておりますが、窯跡の調査は行っておりません。実際に膳所焼や復興膳所焼の作品は多く伝来をしておりますし、また美術館だけでなく、当館でもいくつか所蔵しておりますので、残された作品や記録を通じて、調査を進めていきたいと思っています。

委員

個人の興味も含めてですけども、体験型ワークショップの講座の中で、「花押」を作るものがあるとのことですが、この「花押」は、学芸員の指導で作られるものですか。

事務局

花押ワークショップは 3 年ほど前から始めております。全国的にも花押作りの講座はほとんどありませんでした。当館では最終的に、作ったご自身の花押をバッチにするということで企画しました。単に自分の名前を崩すだけではなくて、一応作り方があり、誰でも作ることが可能です。最初に花押の歴史を 30 分ほど説明をして、残り 1 時間かけて作るというものです。小さな子供から大人まで、歴史を学びながらオリジナルの作品を作るというところまで意図しておりまして 1 回に 20 人程度で開催しております。

委員

ありがとうございます。いまは「花押」が何なのか知っているかたも少ないと思いますし、すごい取り組みだなという風に思いました。ぜひ続けていただければと思います。

委員

45 ページのオリジナル壁紙を公開していると知らなかったんですけど、いまアップされている壁紙が、昔のファミコンゲームみたいなデザインで驚きました。壁紙はすごいレトロなのにちゃんと最新の iPhone の解像度に対応してあるので、何かしら詳しい方がされているのですか。

副館長

壁紙の公開につきましては、当館の職員（受付係）が毎年デザインを相談しながら進めております。受付のメンバーでどういうテーマにするか、どういった絵柄にするのかを考えています。

委員

壁紙についてなんですけど、カレンダーが付いていますよね。源氏物語カレンダーなんですけど、期間が過ぎると終わりなんですけど。

事務局

カレンダーについては、毎年、2 ヶ月ごとに分けて出しております。カレンダー付で公開しておりますが、年度が終わるとカレンダーの日付の文字だけを抜いた画像だけの状態を公開しています。ですので、源氏物語の壁紙も、現在は画像のみのバージョンを公開しています。

委員

ありがとうございます。それでもう 1 つ、ワークショップですけれども、夏休みが中心ですよね。それ以外のワークショップもあると知らなかったんですけど、行ってみたかったなと思いますし、大人向けの内容も増やしていただけるといいのかなと思いました。

事務局

夏休みのワークショップ以外で言いますと、(38 ページ講座一覧の) 7 月 27 日や 12 月 8 日など、大津絵に関連した団扇やカレンダーづくりのワークショップがあります。そうした大人の方にご参加いただけるワークショップというのを年間 4~6 回ぐらい開催させていただいております。また今後増やしていけたらという風に考えております。

会長

先ほどのアーカイブですが、有料のコンテンツを提供しているところ（博物館・美術館）、が多いと思うのですが、大津歴博さんの場合は自前でやられていてすごいなと思います。

あとはワークショップに関しましても、大人の向けの内容をというお話がありました。ちょっと古い情報ですが、滋賀県立琵琶湖博物館さんがリニューアルする際に、色々トリサーチされたそうですが、子供は来ている、お年寄りも来ている。1番来てないのが大人だということがありまして、大人も楽しめる内容にリニューアルされていたと思います。

大人のディスカバリー、というようなものだったと思います。そういう意味では、大人のワークショップがもうちょっと増えるというのはいいんじゃないか、というのを私も思いました。タイトルだけを見ると子供向けみたいに見えてしまうので、何かPRの仕方に工夫を加えるといいのかなと思い聞いておりました。

副館長

今から10年ほど前は、例えば博物館協議会の場で色々ご意見いただいた時に、お子さん向けの内容の充実を、というご指摘や議論がなされました。その時には、特に夏休みのワークショップであつたりとか、子供向けの講座に力を入れました。それがいまの形につながっているのかと考えております。

展示の内容をより深く理解していただくとか、楽しんでもいただく部分については、れきはく講座で行ってきました。ところが今は、歴史のお話をするのではなく、何かを作っていた中で、その延長線上でその歴史を知っていただく、そういうアプローチも求められるようになってきました。

今後は博物館のファン層だけではなくて、もう少し幅広い方々に来ていただけるための、時宜を見据えた努力を続けていきたいと思っています。

もう1点、協議会などでご協議いただく中で、博物館の評価となった時に、どうしても前年に比べて何人来ましたかという、そういう数字の比較が取り上げられることが多くあります。そのため、この協議会資料も意識的に実績値を数字としては出しています。

一方で来館者や講座参加者の目標は掲げておりません。例えばれきはく講座について、座学で開催する場合であれば、おおよそ1回100人の参加者数が増えるという形になります。一方でワークショップでは、20人や30人といったように人数が限られていますので、結果的に参加者数が少なくなります。ただ、ワークショップを実施することによって、広い層の方が来ていただいたり、理解が深まることから、今後は、そういった講座内容について考えていこうと考えており、今回は取り組みの方向性みたいなところで、お話をさせていただきます。

会長

それではご質問・ご意見も出つくしたようですので、事務局にお返しいたします。

館長

今年度につきましては、こういう言い方はあんまり良くないかもしれませんが、源氏物語

バブルという大河ドラマで、私ども博物館に非常にたくさんの来館者にお越しただけました。おそらく、来年の今頃にこの会議をさせていただいた時に、前年に比べてこれだけでした、というような話におそらくなると思います。ただある意味、今年度が異常な事態であったという風に我々も思っておりますので、本来やはり博物館というのは地道な日頃の調査と、その成果を紹介をしていく、博物館に足を運んでいただくと。

そのためには先ほどお話しいただいておりますが、ワークショップであるとか、ホームページを通じての PR ですか、力を入れていきたいと思っております。

4 月以降も頑張ってやっていきたいと思っておりますので、引き続き博物館の運営につきまして、よろしくご協力いただきますことをお願いいたしまして、終わりの挨拶させていただきます。本日はどうもありがとうございます。